

指定管理者評価シート

事業名	札幌市みかほ整肢園	所管課(電話番号)	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
-----	-----------	-----------	----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市みかほ整肢園	所在地	札幌市東区北17条東5丁目2-1
開設時期	昭和46年4月1日	延床面積	1,015.53㎡(総面積1,938.75㎡)
目的	肢体不自由のある就学していない利用児とその保護者を対象に、一人ひとりの状況にあわせた早期療育の場として心身の発達を促し、利用児及び保護者の意思と人格を尊重し、当事者の立場に立った適切な療育を確保することを目的とする。		
事業概要	医療型児童発達支援センター、保育所等訪問支援事業、日中一時支援事業、居宅訪問型児童発達支援事業、相談支援事業、放課後等デイサービスの運営		
主要施設	訓練室、保育室、診察室、心理判定室、言語療法室、工作室、プール、トイレ、調理室、屋外訓練場		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人 麦の子会		
指定期間	令和2年(2020年)4月1日～令和7年(2025年)3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
	▽ 管理運営に係る基本方針の策定		A	B	C	D

(1) 統括管理業務

▼設置目的である「肢体不自由のある就学していない利用児とその保護者を対象に、一人ひとりの状況にあわせた早期療育の場として心身の発達を促し、利用児及び保護者の意思と人格を尊重し、当事者の立場に立った適切な療育を確保することを目的」としている。

▼Mission「共に生きる」困り感のある人たちを救い、ともに生きるために存在しているという法人のミッションのもとに障害のある人もない人も安心して暮らすことが出来る地域づくりを行うということを念頭に置いて支援を行っている。

▼新型コロナウイルス感染予防対策のため法人全体で感染予防の徹底として消毒、換気、三密を避けるなどの対策をとった。

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

▼札幌市みかほ整肢園を利用や見学希望する方が公平公正に利用できるように見学を随時受け入れ対応した。また、関係機関の方から見学希望があった場合にも感染予防対策を取り受け入れを行った。

▼保健センター、相談室、病院等から見学や受け入れの問い合わせが多かったので随時電話での相談や見学などの対応を行った。

▼法人の職員倫理綱領、職務遂行上の留意点、子どもや職員の安全を守るためのルールを明記し、公平公正な管理運営を行った。

▼虐待防止委員会を法人全体で月に1回開催した。また虐待防止に関する責任者を配置した。みかほでの虐待防止委員会ではパート職員への研修を企画・実行した。

・基本方針に沿った運営を心掛け、理念の実践化に努めた。また個別支援計画に基づき、1人1人のニーズに沿った支援を提供できるように各職種で情報共有しながら支援の方向性を統一して支援を行えるよう努めた。

・法人内にある居宅介護支援事業所や短期入所などの事業所間で情報共有し、連携しながら支援を行った。

・感染予防に努め、場所や人数を工夫しながら日々の活動や行事などに取り組んだ。

・看護師は昨年度より1日1～2名増員して配置して感染予防を強化した。

・公平なサービスの提供を実施するために個別支援計画に基づいた支援を実施した。

・管理業務計画に沿って実施することが出来た。

・週1回の法人全体の打ち合わせでMissionやVision、倫理綱領の読み合わせを行い、公平公正な支援と平等利用を図ることが出来た。

・毎月の職員会議の中で障がい者虐待防止法や支援者として注意することを読み合わせしたり、毎週1回アンガーマネジメントとして職員間で助けを求める練習を行い、利用者権利擁護に

・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。
・感染予防強化のために看護師配置を増員したことは特に高く評価できる。
・緊急時対応用に職員が携帯電話を所持して開所日以外の日でも保護者からの相談に乗れる体制を作っていることは高く評価できる。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼電気、水道、油、ガス等の使用に当たっては、極力節約に努めた。

▼札幌市環境マネジメントシステムに基づき職員研修を実施し、ごみの分別等の張り紙を掲示した。

▼ゴミの減量のため出たごみは持ち帰り、ペットボトルや段ボールはリサイクル業者に搬出等努めた。

・消灯やエアコンの操作をこまめに行い省エネに努めたが、新型コロナウイルス感染予防のため建物の換気を定期的に行うことにより、冬場の光熱費の節約が難しい状況になった。

・札幌市環境マネジメントシステムに基づき適切な管理を行うことが出来た。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼法人の組織図、職務、管理者、指揮命令系統を明確にし、緊急時の連絡体制を確定した。また、各職種が職務記述書に基づいた業務を行い、役割分担や責任を明確にした。

▼利用者の送迎利用のニーズの増加に合わせて送迎職員を増員して配置した。

▼当初の研修計画に基づき職員研修を実施した。また、保育職員、リハビリ担当職員など各職種ごとの勉強会や研修会、年代別の研修も計画的に行った。法人内の職員研修だけではなく外部研修にも参加し、それぞれの専門職としての学ぶ機会を設けた。研修参加後は打ち合わせの中で職員に周知をした。

▼人材育成としてグループスーパービジョンを週1回、個別スーパービジョンを月に1回(新人職員は週1回)行った。また、毎日支援を振り返り、より良い支援を行うためにはどうしたらよいか話す時間を設けながら質の向上と人材育成に努めた。

▼法人の人事考課制度を実施した。

・年間の研修計画に基づいて研修に参加することが出来た。また、法人内研修だけではなくオンラインでの外部研修にも積極的に参加し、専門職としてのスキルアップに努めた。

・令和3年度から新たに法人全体で人事考課制度を実施した。それぞれが期待されていることの把握、振り返り、目標立てを定期的に面談を実施しながら、人材育成に努めることができた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼利用者支援の質の向上、情報共有、事故防止のため朝の打ち合わせや情報シート等で情報共有した。

▼個別支援計画に基づいた支援を実施出来ているのか必要に応じて保育職員とリハビリ担当職員が会議を開いて確認し、情報を共有した。

▼活動時にはそれぞれの手順書やマニュアルに沿った支援が行われているか確認し、より良い支援を目指して行った。また定期的に外部のコンサルテーションを受け、自分たちの実践を振り返りながら学びを深めた。

▼ヒヤリハットがあった場合には原因・今後の対策を明確にして周知し、同じ事故がないよう職員間で情報を共有した。また日常的に危険個所がないか担当を決めて園内・園外の見回りや点検を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼建物の警備、エレベーターの保守点検、消防設備点検、業務を札幌市が第三者に対して委託して行った。

▼自動ドアの設備点検をフルテックに委託して行った。

▼毎日警備日誌に沿って園内点検を行っている。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 5月21日	目的、みかほ整肢園が目指す療育、行事予定、自主事業の報告
第2回 8月25日	目的、業務報告、3ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告
第3回 12月13日	目的、業務報告、3ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告
第4回 3月24日	目的、業務報告、4ヶ月の利用状況と取り組み状況、活動報告、2022年度の計画
<協議会メンバー> 札幌市障がい福祉課 調整担当係長、運営指導係長 子ども発達支援総合センター地域支援課長 北光まちづくりセンター所長 北光連合町内会会長	

・利用児の把握については日々の打ち合わせの中で情報を共有した。週1回のクラス会議やケースカンファレンス会議を通して共通の認識の基で一貫した支援を行えるように努めた。また、送迎職員は出発前に安全マニュアルを読み合わせし、事故防止に努めた。パート職員に対しても別途打ち合わせ時間を設定し、情報共有に努めた。・緊急時対応として職員が事業所携帯を所持し、開所日以外の日でも保護者からの相談にのれ

・施設整備管理について作業日や時間の調整など細心の注意を払って対応している。今後も継続した取り組みを実施していく。

・運営状況や業務報告、活動報告を行い、感想や意見を反映しながらより良い運営が出来た。

	<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元監理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に務めた。現金等の取扱いについては、物品購入は小口現金で対応することにより出納管理がスムーズに進んだ。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼利用者からの要望・苦情については法人内で第三者委員を設けるなど体制を整備している。また園内には苦情受付箱や苦情受付担当を配置し、保護者から要望・苦情を受けた場合には苦情対応マニュアルに沿って対応し、改善を行っている。職員には職員手帳に記載して周知している。</p> <p>▼利用者や家族からの要望に関しては、個別支援計画をもとにした個別懇談会を実施し、支援の内容等も家族とともに確認しながら行っている。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼日々の記録等必要な書類はパソコンで作成し、児童発達支援管理責任者が適時確認を行った。</p> <p>▼個別支援計画の作成については利用者のニーズや発達段階を把握し、保護者との面談の中で必要な支援を行えるように各職種で会議を行った。また、発達に合わせて随時会議を行い、計画に沿った支援を行った。</p> <p>▼札幌市への月次報告を行っている。</p> <p>▼業務検査を年2回、財務検査を年1回受け、大きな指摘事項はなかった。</p> <p>▼書類の保管はすべて鍵付きの書庫に保存している。</p> <p>▼アンケート用紙を配布してセルフモニタリングを実施し、利用者の満足度の計測を行った。</p>	<p>小口現金を活用することで、出納管理しやすくなった。</p> <p>・令和3年度は受付をした苦情はなかった。</p> <p>・利用児や家族の情報を日々共有することで職種毎に共通の認識をもって支援を行うことが出来た。</p>					
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>▼法人が作成している就業規則に則り、時間外・休日労働に関する協定書、給与からの法定外控除に関する協定書、就業規則、給与規程など必要な労働関係法令を整備した。</p> <p>▼本人の有休の希望に沿って有休を取得できるように体制作りを行った。</p> <p>▼全職員が1年に1回の健康診断を必須とし、保育に携わる職員は6ヶ月に1回の腰痛検査を行った。また、ストレスチェックシートを用い、職場環境の維持向上に努めた。</p>	<p>・雇用環境を整備し、職員がやりがいや目標をもって働ける環境作りに努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: yellow;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

<p>(3) 施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼ 個別の関りを意識し、常に安全を守ることに努めた。座位保持椅子の使用など行動制限の対象となる行為が想定される場合は、個別支援計画に記載し、事前に保護者の同意を得ている。また、行動制限の対象となる具体的な行為があった場合は、業務日誌に記載している。</p> <p>▼ 法人の感染防止委員会に月1回参加した。また、感染症予防や対策のため手順書を作成し、利用者や職員の健康管理や安全に気を付けた。また、感染症対策のマニュアル等を適宜見直した。みかほでの感染防止委員会を月1回行い、新型コロナウイルス以外の感染症対策を企画・実行した。</p> <p>▼ 緊急時対応マニュアル(火災、震災等)を作成し、啓発を行っている。また、緊急時連絡体制の連絡網も作成した。</p> <p>▼ 救急救命法の講習も実施し、AEDの使用方法について外部講師を招いて研修を行った。</p> <p>▼ 防犯対策として玄関の鍵は施錠し、モニターで確認をしてから開錠している。また、不審者対応マニュアルを作成し、研修を行った。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ 日常清掃では毎朝打ち合わせの前と退勤前に担当箇所を決めて清掃を行った。おもちゃや手の触れる所は使用後の消毒や1日3回消毒を行っている。</p> <p>▼ 計画清掃では届出書を作成し、計画的に実施した。</p> <p>▼ 建物の警備は帝国セキュリティが行っている。また、同一建物内にあるあかしあ学園と連絡を取り合いながら建物の施錠や開錠を行った。</p> <p>▼ 絨毯清掃は週1回行った。</p> <p>▼ 園庭管理として芝生草刈り、水まきは計画を立てて予定通り行った。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 防災計画を策定するとともに、月1回防災訓練を実施した。また、年2回あかしあ学園と合同避難訓練を実施した。</p> <p>▼ 防火管理責任者を選出して防災管理の徹底を図った。</p>	<p>・1人1人の障がい特性に合わせた関りを意識し、座位保持椅子の使用など行動制限の対象となる行為がある場合は職員間で共通対応した。</p> <p>・地震の教訓から災害時の非常食などの確認を行った。今後も緊急事態を想定した連絡網での訓練の実施を行いたい。</p> <p>・日常清掃や計画清掃を行い、施設の維持管理に努めた。</p> <p>・同一建物内にあるあかしあ学園と情報を共有して防災に対する取り組みを行った。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p> <p>・手厚い感染症対策を行っていることは評価できる。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
<p>(4) 事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 学習機会の提供業務</p> <p>▼ リハビリ担当スタッフ、看護師、栄養士等専門職がテーマを決めて保護者向けの学習会を実施した。また、ペアレントトレーニングの学習の機会を設けた。</p> <p>▽ 医療型児童発達支援センターと児童発達支援センターに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼ 児童発達支援センター会議に出席し、各センターとの情報共有を行った。また、新型コロナウイルス感染症対策のため対面研修が出来なかったため他園と協力して動画を作成した。障がい福祉課として動画を札幌市内の児童発達支援事業所・放課後等デイサービスに配信した。</p>	<p>・専門職が保護者向けに学習会の予定を組んで実施することが出来た。また、保護者の要望に合わせてその他に学習会の機会も設けた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者向け学習会やペアレントトレーニングによる学習を行っている点は評価できる。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

	<p>▽ 町内会エリアセーフティー(地域安全)と介護予防センターに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼町内会のみかほの取り組みの情報提供や総会に出席した。</p> <p>▼特別養護老人ホームのコロナ対策の情報収集を行った。</p> <p>▼コロナ対策、医療的ケア児や重心の子どもの療育やリハビリについての情報提供を行った。</p> <p>▽ 市民の自主活動及び交流の支援業務</p> <p>▼今年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため交流は行わなかった。</p> <p>▽ 利用に関する相談業務</p> <p>▼1年間で電話や来所での相談や見学等を含めると延べ 41件の相談対応を行った。</p>																														
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1" data-bbox="400 645 999 909"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度実績</th> <th>R3年度計画</th> <th>R3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ人数</td> <td>3375</td> <td>2360</td> <td>5362</td> </tr> <tr> <td>開所日数</td> <td>234</td> <td>236</td> <td>238</td> </tr> <tr> <td>人数/日</td> <td>14.4</td> <td>11</td> <td>22.5</td> </tr> <tr> <td>新入園児</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>退園児</td> <td>14</td> <td>-</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼随時保護者からの見学や他事業所、相談事業所など様々な機会を通して見学を受け入れ施設の紹介を行った。</p>		R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績	延べ人数	3375	2360	5362	開所日数	234	236	238	人数/日	14.4	11	22.5	新入園児	24	20	15	退園児	14	-	9	<p>・令和3年度4月は42名の在園児であった。感染予防対策を行いながら見学や体験などの希望を随時受け入れた。</p> <p>・利用率は80%を目指していたがコロナ禍もあり、登園を控えている方や入院等で長期休みの方が多くなることがあり56%であった。なお、指定管理で引き継いだ年は36%であり、20%あがっている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: yellow;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・利用率が要求水準に満たなかった要因として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と相当程度の関連性が認められる。</p>	A	B	C	D
	R2年度実績	R3年度計画	R3年度実績																												
延べ人数	3375	2360	5362																												
開所日数	234	236	238																												
人数/日	14.4	11	22.5																												
新入園児	24	20	15																												
退園児	14	-	9																												
A	B	C	D																												
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼インターネット上で札幌市のホームページに掲載している。日々の活動や行事については法人内のブログに掲載した。</p> <p>▼関係機関や学校等に毎月園だよりを送付し、園での活動内容について広くお知らせをした。</p> <p>▼当事業所への見学の親子は延べ25名だった。学生実習の受け入れや関係機関の見学等も感染予防対策を行いながら受け入れた。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (指定管理期間のため該当しない)</p>	<p>・保護者に確認しながら活動を外部の方に向けて発信することが出来た。今後も継続して行っていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: yellow;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。</p>	A	B	C	D																								
A	B	C	D																												
<p>2 自主事業その他</p>																															
<p>▽ 自主事業</p> <p>▼日中一時支援事業の契約人数が35名であった。</p> <p>▼令和3年度から放課後等デイサービスみかほを開始し、センターを卒園した子どもたちが通える場所作りを行った。契約の人数は6名であった。指定基準上は求められていない理学療法士を配置することで重症心身障害を呈す児童の心身機能の改善と、日常活動動作の改善が見られた。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼札幌シルバー人材センターと札幌社会復帰センターに除雪の依頼を行った。</p>	<p>・保護者のニーズに合わせて支援を行い、体調が悪かった母親が回復したり、兄弟の子どもの世話ができるようになった等生活が楽になり子育てに余裕が出てきたなどの声が聞かれた。働くお母さんも増加し、生活の安定に繋がった。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・適正に事業を実施している。</p> <p>・指定基準上は求められていない理学療法士を独自に配置したことで重症心身障害児の心身機能等の改善が見られた点は、特に高く評価できる。</p>	A	B	C	D																									
A	B	C	D																												

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果		A	B	C	D
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実施期間 令和4年1月～2月 ・対象者 利用者 54名 ・回収率 94% 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からの要望・意見の中ですぐに対応できるものは業者を呼んで改善するなどの対策をとった。 ・今後も利用者や家族のために更なるサービスの向上を目指していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・要求水準を上回る満足度であり、評価できる。 	
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な満足度は目標80%に対し86%だった。 「子供は通園を楽しみにしているか」 はいが84% どちらともいえないが5% 「事業所の支援に満足しているか、当施設に総合的な満足をしているか」 はいが86% どちらともいえないが11% 「職員の接遇について満足しているか」 はいが90% どちらともいえないが9%であった。 				
利用者からの意見・要望とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・家族以外に心を許せる先生がいて本当に助かっている。 ・子どもにとって安心できる場所だとわかってきたのかニコニコご機嫌なことが多い。帰りの会などで人が集まると満面の笑みで喜びを表現してくれています。 ・迎えに行くたびに笑顔で遊んでいて楽しそうに過ごしている。 ・十分すぎるほど手厚い支援で助かってます。 ・単独で預かっていただけなので本当にありがたいです。 ・いつも先生方が工夫して様々なイベントを行ってくださるので親子共々楽しく登園しています。 ・接遇だけではなく思いやりのあるあたたかい方が多い。 ・いつも丁寧に明るく、子ども・保護者に接してくれている。 <p>【意見】 廊下に座位保持や車いすが置いてあり危ないのではないかと思う。</p> <p>【対応】登園していない子どもの座位保持椅子等は2階の空きスペースに保管するようにします。</p> <p>【意見】コロナで換気は仕方ないが、体温調整が苦手な子どもには寒いと感じることがある。</p> <p>【対応】コロナ対策のため常に換気を行っています。窓際にいかないように配慮します。電気毛布などを利用し保温に心がけていきます。</p>				

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	122,778	131,765	8,987
指定管理業務収入	96,298	110,739	14,441
指定管理費	69,598	69,598	0
利用料金	1,020	1,759	739
その他	25,680	39,382	13,702
自主事業収入	26,480	21,026	▲ 5,454
支出	127,012	147,000	19,988
指定管理業務支出	103,922	115,838	11,916
自主事業支出	23,090	31,162	8,072
収入-支出	▲ 4,234	▲ 15,235	▲ 11,001
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 4,234	▲ 15,235	▲ 11,001

▽ 説明

- 指定管理業務収入ではその他収入、利用者増により障害児施設給付費や診療報酬の増加やコロナ補助金収入等で計画より13,702千円増となった。
- 指定管理業務支出は利用人数増により、単独の医療的ケア児等が増えたことで、看護師等を増員したことや事業費、業務費が増加し計画より11,916千円増となっている。
- 指定管理業務収支は計画では-7,624千円のところ、決算は-5,099千円となり計画より増収となった。
- 自主事業収入は今年度から放課後等デイサービスを開設したが利用率が58.7%であったために計画より5,457千円減となった。
- 自主事業支出は放課後等デイサービスは、PTを配置したため人件費が計画より増となったことと事業費、業務費が増加し計画より8,072千円増となっている。
- 以上のことから収支は計画より11,001千円減となった。

2年目の指定管理者として、支援の充実と利用者増に努めた。一日の平均利用者が2020年度が14.4人から22.5人に増加し、給付費収入が1442万円、昨年度より増加したことにより、医療型児童発達支援センターの収支は昨年度より改善した。しかし、自主事業の放課後等デイサービスは入院や、コロナ関連の欠席が多かったため利用率が58.7%となったことで、自主事業は1014万円の赤字となった。2022年度は利用者増による経営の安定化が見込まれる。

A	B	C	D
<p>・指定管理業務収入については、利用者増に努め、支出超過ながらも計画を上回る収益となっていることは評価できる。また、自主事業については、計画を下回る収益となり支出超過となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響等により利用率が低くなったためであると認められる。一方、人員配置により人件費が計画より増となった結果、全体での収支が悪化したことは、事業継続のためには懸念材料となる。</p>			

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当法人は一体的に福祉サービスを提供しており、財政状況は安定している。

適 不適

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業所単体としての収支は赤字となったが、法人全体としては安定した経営を保持している。

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。

適 不適

・各条例を順守し、適正に対応している。

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】

総合評価

来年度以降の重点取組事項

令和2年度より札幌市みかほ整肢園は指定管理者制度を導入し、社会福祉法人妻の子会によるサービス提供、施設管理・運営を開始した。指定管理施設としての質の高いサービス提供体制を確保しつつ、さらに利用者のニーズに沿った柔軟な視点や工夫によるサービスの向上を目指していくことを優先して運営を行ってきた。

○ 利用者の虐待防止・権利擁護の遵守
国連の「子供の権利条約」「障害者権利条約」に基づき、利用する方々の人権を守るため、支援者として確固たる倫理観と専門性を持ち合わせるができるように、アンガーマネジメント研修、行動障害や肢体不自由のある方への対応方法の研修、落ち着きプランの設定、毎週水曜日の助けを求め・助けを求められる前に助けに入る練習などを実施した。

また、医療面・行動面での安全の確保のために腰ベルトや保護帽等を装着する場合には、事前に個別支援計画書で保護者に同意を得た上で実施し、業務日誌への記載も行った。

○ 保護者との面談や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の身体機能・構造、活動や参加場面における評価を共有し、各利用者と保護者の希望に沿った支援計画を作成した。計画に合わせて、日々の保育活動やリハビリ場面での経過について定期的にカンファレンスを行った。

○ 障害児を抱えて交通機関を利用することは困難なためドアツードアをすることで毎日の利用人数が増えた。また、各家庭のニーズに合わせて母子通園や単独利用を取り入れたことで兄弟の世話もできるようになったこと、また、働く母親も利用できるようになったことで、さらに利用人数が増えてきている。

○ 年3回の親子発達支援と月1回のクラス懇談、ペアレントトレーニングの勉強会などで保護者との交流の場を持った。親子発達支援やクラス懇談では保護者の悩みに寄り添い、育児についての悩みを共有した。ペアレントトレーニングの講座では、子どもをほめて育てることを基本に練習を繰り返した。その他にも個別の懇談の機会を設け、個々のニーズが把握できるように努めた。

○ 自主事業では、病院退院後通所できない子どもに家庭に出向き療育を行う居宅型児童発達支援事業を行った。またレスパイト事業として日中一時支援事業を実施した。その中で体調が悪かった母親が回復したり、兄弟の子どもが世話ができるようになった等生活が楽になり子育てに余裕が出てきたなどの声が聞かれた。令和3年度からは放課後等デイサービスを開始し、卒園後も継続して通える場所作りを行った。

○新型コロナウイルス感染拡大予防のため登園を控えている方や縮小営業を行っていた時にオンラインで朝の会や手遊びなどの支援を行った。

○ 子どもや障害のある人の命を大切に、尊厳が守られ、希望につながる支援を行えるように、職員の専門性・資質の向上、働くことを通してやりがいのある人生が送れるように各種研修を実施した。研修会については、年間計画をたて、年代別専門研修、職階別研修、共通研修を個人に合わせて積極的に参加しスキル向上を図った。

○ 利用者の虐待防止・権利擁護の遵守
法人として倫理綱領を策定して職員手帳に記載して毎朝のミーティングで輪読することで倫理綱領に基づいて職員が行動できるように進めていく。また、職員一人一人の落ち着きプランを張り出し週1回アンガーマネジメントの練習を継続することで職員同士助け合い、利用者への虐待防止につなげていく。

○ 医療型児童発達支援センターのとして発育に困難をかかえる疾病や障害のある子どもや保護者と子育ての喜びや楽しみを共有し、家族の心情に寄り添った相談や支援をチームですすめていく。感染予防を行いながらも人数を工夫するなど対応を取りながら行事を行っていく。年長児のお泊り会を実施する。

○ 家族支援として、クラス活動で親子でクラスへの所属感を持てるように支援していく。

また、保護者同士の交流の場を設ける。そして子どもの発達に合わせた子育てができるように学びや交流の機会を増やしていく。

具体的にはクラス懇談、医療的ケアが必要な子どもや障害のある子どもの子育て体験談、ペアレントトレーニング、子育て講座、親子発達支援のプログラム、子どもの精神発達についてなど日常的に進めていく。また、親の会の支援を行い、行事などを共催して一緒に作り上げていく。

○ 法人全体として、発達障害、自閉症、心理臨床、ペアレントトレーニング、職業人として高いレベルの働き方についてそれぞれ専門家よりコンサルテーションを受けて研修することで職員の資質の向上を図る。また新人、2年目、3年目、4年目、5年目以上のプログラムを作り人材育成を行っていく。それから、分野ごとにオンデマンド研修を行う。

みかほでは医療型児童発達支援センターとして専門分野のコンサルテーションを受けて専門性を磨いていく。

【所管局の評価】

総合評価

利用者からの緊急連絡用に職員が携帯電話を所持していること、利用者のニーズに合わせてためや感染症予防のための職員の増員や自主事業など、手厚い事業を実施していると評価できる。また、利用者アンケートの要求水準を上回っていることは評価できる。

改善指導・指示事項

引き続き、利用者処遇の向上に努めてもらいたい。